



## 慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所

# 第19回安全安心サイエンス「感染症・バイオテロ研究会」

2009年研究会テーマ

## 「異常な感染症の発生を知る」

迅速な対応開始による被害軽減のためのState of the Art

コーディネーター: 齋藤 智也

慶應義塾大学医学部熱帯医学寄生虫学

# 「原因の調査」

## コンセプト

異常な感染症の発生が認められた場合には、その対応策を打ち出すにあたり、迅速に流行の範囲と原因の調査を行う必要がある。この調査手法は「実地疫学」と呼ばれ、保健所など公衆衛生関係者によって行われる。一方、バイオテロのような人為的に引き起こされた感染症流行であった場合、この犯人を特定し次の犯罪を抑止する犯罪捜査としての側面が関わり、これは司法当局によって実施されるものである。2001年の米国炭疽菌郵送テロ事件の教訓として、バイオテロ捜査においては、公衆衛生関係者による実地疫学調査と司法当局の捜査の連携が重要であることが明らかになり、主に米国では両者の連携が進められてきた。本研究会においては、2名の講師の先生をお招きし、公衆衛生領域における感染症流行の実地疫学手法についてご解説頂くと同時に、警察の犯罪捜査の手法の基本的な考え方をご講演いただく。ご講演のあと、総合討論の機会を得て、両者の基本的な思考過程の共通性を見だしつつ、お互いのスタンスの違いや接点、連携方法を考える機会にしたいと考えている。

## プログラム

### 「公衆衛生からのアプローチ： 実地疫学の手法」

防衛医科大学校

国際感染症学講座准教授

**加來 浩器 氏**

### 「生物テロ事案における警察の捜査」

早稲田大学

社会安全政策研究所客員教授

**田村 正博 氏**

## 総合討論

**開催場所：慶應義塾大学三田キャンパス  
東館6階 G-SEC Lab**

**開催日時：2009年9月12日(土)  
14:00~18:00  
受付開始13:30~**

**当日連絡先：03-5427-1293  
(12:00~13:30)**



**申込方法：**参加を希望される方は下記のアドレスからお申込ください。「事前参加登録制」です。席に限りがございますので、定員に達し次第締め切らせていただきます。尚、お送りいただいた情報はプロジェクト内で管理しております。

**事前申し込み：**<http://biopreparedness.jp/>

**申込締切：**2009年9月9日 水曜日

本研究会は、平成21年度文部科学省安全・安心科学技術プロジェクト「テロ等への医学的見地からの公衆衛生措置や医療的対策に関する調査研究（研究統括：慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 副所長・上席研究員 竹内 勤）」により実施しています。

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所  
安全・安心科学技術プロジェクト事務局  
〒108-8345 港区三田2-15-45  
TEL:03-5427-1293(内線23746)